郡山市立小原田中学校
学校だより
No.44

手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒

令和３年１月２９日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長　熊 坂　　洋

『旅立ちの日に』の誕生にはこんなドラマがあった！

式歌それぞれの背景や詩の意味を考えながら歌い上げよう！

来週からは２月となります。１月は「行く」、２月は「逃げる」、３月は「去る」と言われるように、３学期の３ヶ月間は日々の経過が加速度を増していきます。

今年度の卒業式はどのような形で実施していくのかについて、現在検討しているところですが、音楽科の授業では、すでに卒業式の式歌の練習が始まっています。本校では卒業生が歌う式歌となっている合唱曲『旅立ちの日に』ですが、今や卒業式の定番となっているこの歌の誕生にはこんなドラマがありました。

音楽での式歌練習（３年）
感染症対策のため換気に注意しながら間隔をとっての練習

埼玉県秩父（ちちぶ）市立影森（かげもり）中学校の小嶋登（こじまのぼる）校長は、当時荒れていた学校を立て直すために、「歌声の響く学校」にすることを目指し、校内で歌う機会を増やしました。当初生徒達は抵抗していましたが、音楽の坂本浩美（さかもとひろみ）教諭とともに粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって学校は明るく変容しました。それから３年後の1991年２月、坂本教諭は集大成として「卒業する生徒達のために、何か記念になる世界にひとつしかないものを残したい！」との想いから合唱曲づくりを始めました。作詞を小嶋校長に依頼しました。その時は「私にはそんなセンスはないから」と断られましたが、翌日、坂本教諭の机上には書き上げられた歌詞が置いてありました。その歌詞を見た坂本教諭は、なんて素適な言葉が散りばめられているんだと感激したそうです。その後、授業の空き時間に早速ひとり音楽室にこもり楽曲制作に取り組むと、旋律が湧き出るように思い浮かび、実際の楽曲制作に要した時間は１５分程度だったといいます。出来上がった曲は、最初はたった１度きり「3年生を送る会」で教職員から卒業生に向けて歌うためのサプライズのはずであったのですが、その翌年からは生徒達によって歌い継がれるようになりました。しばらくは影森中学校だけで歌われた合唱曲でしたが、次第にまわりの小中学校でも歌われるようになりました。当時東京都の中学校で音楽教諭を務めていた作曲家の松井孝夫氏は、この曲を知ると混声三部合唱への編曲を行い、これが雑誌に取り上げられたことで、1998年頃までに全国の学校で歌われるようになりました。さらに2007年にＳＭＡＰが出演するＮＴＴ東日本のＣＭソングに起用されたのをきっかけに、卒業式で定番のように歌われていた『仰げば尊し』や『巣立ちの歌』などを抜き全国で最も広く歌われる卒業式の歌になったのです。

私も今までの卒業式で、何度もこの『旅立ちの日に』を聴いてきました。聴く度に感動が湧き上がってきます。「自由を駆ける鳥」という歌詞が好きで、卒業生が旅立つその時の心境と見事にオーバーラップします。これからも歌い継がれていく名曲だと思います。

在校生が歌う『花束』、全校合唱の『輝くために』、それぞれにも作者の想いや願いが込められており、その意味をよく考え、理解して、自分のものにしながら歌い上げてほしいと思います。

みんなで協力してひとつのものをつくりあげるということは、本当にすばらしいことです。中学校で経験したさまざまな取り組みを、卒業式の式歌は象徴していると思います。そして、もしかしたら、そんなすばらしい体験ができるのも、一生のうちで中学校が最後になるかもしれません。今後卒業式がどのような形になるせよ、今練習している式歌を披露する場は必ず設定していきたいと考えています。練習時間も例年よりは少なくなることが予想されます。だからこそ、練習時間を大切にし、想いを込めて歌い上げてください。

かがやくこと、いくつか…

今回は読書感想画、習字、詩など、生徒の文化面でのすばらしい作品を紹介します。

■ 福島県読書感想画コンクール

“学校賞” 受賞（県全体で小中高１３校が受賞）

【優秀賞】（県代表として中央審査会へ）

瀧田青空(2-2)「川を下って」
(書名「ヘヴンアイズ」)

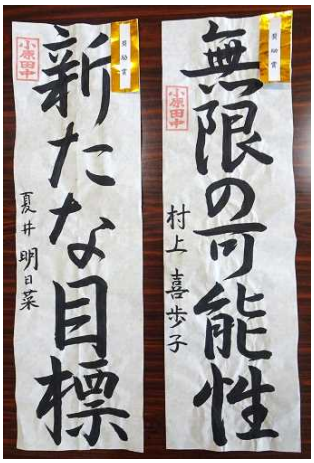
渡部陽奈子(1-2)「未来をつなぐ紅型」
(書名「よみがえった奇跡の紅型」)

【優良賞】

松崎　結(1-3)「小さなあたしとへびおとこのはなし」
(書名「虹色図書館のへびおとこ」)

■ 郡山市小中学校書きぞめ展

奨励賞　村上喜歩子(3-4)
夏井明日菜(2-3)



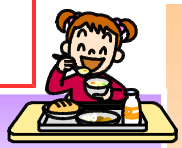
市書きぞめ展では、例年各学校が掛け軸に作品を貼り、それらが文化センターに展示され、全ての学校の優れた作品を見ることができましたが、今年度は上位３賞の２１点の作品だけが市役所に展示されています。本校の奨励賞の２作品は昇降口に展示されています。

県読書感想画コンクールでは、見事「学校賞」を受賞することができました。本を読んでの印象を絵で表現する。高度な表現力が必要とされる難しい作業です。それに挑戦した生徒達に大きな拍手をおくります。

■ 「ぼくらのひろば」佳 作　富塚　滉(1-4)

富塚君が小学校６年生の時に郡山市教育委員会発行の令和元年「ぼくらのひろば」第５３号で佳作を受賞した作品です。令和３年「青い窓１・２月号」に掲載されました。２月４日（木）にはラジオ福島でも紹介されます。(「こどもの夢の青い窓」放送時間10:15～10:20)

夕げのきめ細かな描写から、家族の絆や温かい家庭の雰囲気がよく伝わってくるすばらしい作品です。



うちのご飯

ぼくは四人兄弟だ
しかも男ばっかりだ
ご飯の時間は戦争
ボーッとしてるとおかずが無くなる

コロッケの日は三十個
ギョーザの日は百個
お母さんがせっせと作る

休日は
お父さんの出番
五合チャー飯は絶品だ

「うちのご飯は食堂みたいだね」
お母さんが笑う
ぼくもつられて笑う
毎日おいしいうちのご飯

1月28日の給食は小原田中立案献立！

１月24日～30日は「全国学校給食週間」です。その中で１月28日（木）の給食は、小原田中立案献立として、わかめごはん、春巻き、ほうれん草のツナ入りごま和え、ワンタンスープ、牛乳、チョコクレープでした。望月武継君を中心とする３年２組の給食委員会の生徒が考えたニューで、みんなに喜んで食べてもらえるようにと、食べやすい人気メニューを多くしたそうです。今年度は臨時休業や分散登校を通して給食のありがたさを改めて実感することができ、毎日の給食をホームページに掲載するようにしました。この「学校給食週間」を良い機会として、生産者さん、お店屋さん、調理員さん、運送員さん、そして本校配膳員の濱津さんなど、学校給食を支える多くの方々への感謝の気持ちを新たにしたいと思います。